

第4号様式（8関係）

令和8年1月26日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立松原小学校

校長 新山明子

事業テーマ	あたま・こころ・からだを鍛え、自他を大切にしながら生きる 松原っ子の育成	
取組の目的	<input type="radio"/> 1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現 <input type="radio"/> 子どものソーシャルスキルと自己肯定感の涵養 <input type="radio"/> 子どもの総合的な体力の向上と健康の保持増進	
区分 (○印を付ける)	新規事業・ <input type="checkbox"/> 継続事業 (総事業年数 3年間、3年目)	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	<ul style="list-style-type: none"><li>総合的な学習の時間における「個人探究学習」の充実。</li><li>全校 SST「にっこりタイム」の継続実施と子どもたちが安心して授業を受けることができる環境づくり。</li><li>「しきけ」を生かした体育授業の実践と校内での共有。</li></ul>	
事業名	事業内容	実施時期
1人1台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」及び「個別最適な学びと協働的な学び」の実現	<ul style="list-style-type: none"><li>「端末」「対話」「見方・考え方」「主体的」をキーワードに、日常的な授業改善と外部講師による授業参観・指導助言等を通して、1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現をめざした。</li><li>総合的な学習の時間（4年生以上全学級）での個人探究学習を実施した。</li></ul>	
子どものソーシャルスキルの定着と自己肯定感の涵養	<ul style="list-style-type: none"><li>外部講師の指導助言を受けながら全校 SST「にっこりタイム」を継続実施し、子どものソーシャルスキルと自己肯定感の涵養をめざした。また、アンケートをもとに児童の変容をとらえ、取組の改善を図った。</li></ul>	
子どもの総合的な体力の向上と健康の保持増進	<ul style="list-style-type: none"><li>基礎感覚運動の充実と外部講師による師範授業や講演会等を通して、児童の総合的</li></ul>	

	<p>な体力の向上と運動に親しむ態度の涵養を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師による示範授業や講演会を市内他校へ公開した。</li> <li>フッ化物洗口を推進し、将来困らない体づくりを進めた。</li> </ul>	
<p><b>取組の成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「端末」「対話」「見方・考え方」「主体的」を意識した授業を日常化できるよう、教員間での理解が進み、日常授業や研究授業において、実践が進んだ。</li> <li>1人1台端末を活用した活動が、授業以外の行事等においても見受けられ、協働する姿があった。</li> <li>総合的な学習の時間における個人探究学習で、自己の興味や好奇心と向き合うことで、自己理解を深める機会となった。</li> <li>全校 SST「にっこりタイム」を継続実施し、自己理解と他者理解を促したことで、児童の自己肯定感が高まり、アンケートにも顕著に表れていた。</li> <li>全校 SST「にっこりタイム」を行うことで、人と関わる力が身についたと感じたり、周りの人に大切にされていることを実感したりする児童が増加したこと、アンケートで見受けられた。</li> <li>低学年から系統的・継続的に基礎感覚運動に取り組みことが、生涯にわたって運動に親しむ素地をつくることがわかった。</li> <li>「しあわせ」を生かした体育授業づくりに対する教員の向上心が高まった。</li> <li>フッ化物洗口を継続したことで、児童の健康への意識が高まり、全校で同時にすることで、習慣として身についた。</li> </ul>		
<p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業テーマに近づけるために、ICT（あたま）を使って、SSTで培った人間関係（こころ）を生かし、健康や体力向上（からだ）の課題を解決するといった、横断的な指導を校内で共有していく。</li> <li>総合的な学習の時間における個人探究学習で、児童が自分の興味をさらに深く掘り下げるよう、校内で連携を図り、多くの教員から指導・助言ができるよう環境整備をより整えていく。</li> <li>全校 SST「にっこりタイム」の効果を継続するために、学校生活のあらゆる場面で、学んだスキルが自然に発揮されるような学校生活の充実を図る。</li> </ul>		